

教育目標 ①家族や地域を支える「自立」した大人へ ②学ぶ姿勢を持ち続け「成長」していく大人へ
令和元年（2019年）11月13日（水） 熊本県立湧心館高等学校長 郷 慶次

11月8日（金） 熊本県立湧心館高等学校創立40周年記念式典挙行、記念講演開催

多くの来賓の皆様をお迎えして創立40周年を記念して式典及び講演会を開催しました。

生徒の皆さんは会場設営・撤収ではきびきびと行動し、受付・案内、控室の対応等では心のこもったおもてなしをしてくれました。式後には、来校されたお客様から生徒諸君の挨拶が実に気持ち良かった、体育館で話を聴く態度が良かった等、お褒めの言葉をいただきました。

また、平成7年度に本校定時制を卒業され、現在フランスでレストランのオーナーシェフとして活躍されている手島竜司様の講演では、たくさんの生徒が質問をしてくれ、手島様から実体験に基づいた、有意義な話を聞くことができました。今回の記念式典及び記念講演は、これからの時代を担う皆さんにとって貴重な経験となったことと思います。聞いたこと、感じたことを今後の学校生活やその後の人生に生かしてくれることを心から期待しています。

◇ 生徒代表誓いの言葉（抜粋）

・ 全日制課程生徒代表 緒方萌さん

私は、先日、生徒会室で20周年記念誌を見つけました。その年は江津高校から湧心館高校へと名称が変更された記念の年だったそうです。その中に、当時の生徒会長や歴代の校長先生の言葉などがあり、自分たちの学校の名称が変わることへの思いや将来の期待が述べられていました。

他にも、生徒の様子を撮った写真や校舎のイラストがあり、そこには今と変わらない様子がありました。私は、本校には数多くの変化を遂げながらも、一貫して変わらない大切なことが受け継がれていることに気付きました。

これから、私たちもその伝統を継承する一員として歩んでまいります。できることから少しずつ前へ進み、守るべき部分は守り、新しい湧心館高校を築いていきます。そして校歌にもある「気高き理想」を掲げながら、それぞれの夢に向かって努力していくことを誓います。

・ 定時制課程生徒代表 吉田歩未さん

これまでの先輩方は、卒業式の際、様々な言葉を在校生の私たちに残してくれました。

「在学中にしかできないことを見つけ、分からないことがあれば、恥ずかしがらずに人に聞け」

「難しい夢であっても一度きりの人生を無駄にせず、何かしら夢を持って恐れずに立ち向かえ」

「友人を大切にして、湧心館高校で学んだことに自信を持って社会に飛び立て」

「学校生活はあっという間に過ぎていく。やりたいことがあるなら自分らしさを忘れず積極的に取り組んでいきなさい。」と。

わずか数年間でスマートフォンやAIなど、様々な社会の変化が急速に進んでいます。それでも私たちは「湧定魂」を忘れず、一歩ずつ前へ歩みたいと思います。先輩方の言葉を胸に、次の世代へバトンパスができるように残りの学校生活を過ごしていきたいと思います。

【裏面に続く】

◇ 創立40周年記念式典次第

- 1 開式
- 2 国歌斉唱
- 3 校長式辞
- 4 熊本県教育委員会あいさつ 熊本県教育委員 木之内 均 様
- 5 来賓祝辞
熊本県議会議員 藤川 隆夫 様
熊本県高等学校定時制通信制教育振興会会長 主海 偉佐雄 様
熊本県公立高等学校長会副会長 竹下 文則 様
- 6 来賓紹介
- 7 祝詞・祝電披露
- 8 同窓会長あいさつ 古田 利武 様
- 9 生徒代表誓いの言葉
- 10 校歌斉唱
- 11 閉式

◇ 記念講演 演題「世界と日本の働き方、労働環境の違い」

フランスパリレストラン「パージュ」オーナーシェフ 手島 竜司 氏



・ 通信制課程生徒代表 山口愛生さん

私たち通信制の生徒は、入学した動機や経過、年代も様々ですが、それぞれに「図南（となん）の志」を抱き、入学してきました。「図南」とは、鵬（おおとり）という大きな鳥が逆風に向かって三千里の荒波をはばたき、九万里の空高く舞いのぼり、南の大海をめざして飛んでいく、という意味です。このことから、「図南」は、「大きな志を立て、目的を貫徹すべく精いっぱい努力する」という意味にも使われるようになり、通信制の機関紙のタイトルとなっています。

私たちは、全日制や定時制のみなさんとは大きく違うスタイルで学んでいます。この湧心館高校の校舎で学べる限られた時間を大切に、レポート提出のスケジュール管理を怠らず、自学自習に励んでいます。「図南」の文字を見るたびに、私たちは、向かい風をものともせずはばたく鳥の姿を思い、通信制から多くの先輩方が飛び立っていかれ、活躍しておられることに勇気づけられます。私たちも日々勉学に励み、同窓の友人との友情を育み、目ざす場所に向けてたくましく飛翔することを、ここに誓います。

◇校長式辞（抜粋）

本校は、昭和54年4月、済々黌高校、熊本高校、熊本商業高校の3校の定時制課程と第一高校の通信制課程が分離独立して設置され、校名を江津高校とし、第1回入学生として308名の生徒が門をくぐり、歴史がスタートしました。

以来40年、校名の湧心館高校への変更、課程や学科の改編を経て、県下唯一の全日制、定時制、通信制の三つの課程を有する高校へと生まれ変わり現在に至っています。本校を巣立った1万600人余の卒業生の皆様は、国内のみならず、世界で活躍されていることは喜びに堪えません。



創立の年の10月、開校記念式典が挙行政され、初代校長の中山眞一先生は次のように述べられました。

「高い教養と、豊かな人間性を培い、自主、独立性に富み、心身共に健康で逞しい有為な人材を育成することを教育目標に掲げ、校訓を教示して具体的な実践目標とした。」

ここに示された「有為な人材の育成」の「有為」とは、役に立つこと、才能のあることの意味であり、高校生の時代に意欲的に学んで力をつけること、社会の発展に貢献できることと理解をしています。

確かに、3つの課程は単位制であり、74単位の取得を持って卒業できるとする特徴は共通であり、単位の認定に求められる考査や出席、通信制課程にあつてはレポートの提出など、必要な要件を満たして確実に単位を取っていくことは、生徒自身に責任感を植え付けます。加えて、生徒一人ひとりが自らの興味や関心に応じて、多くの科目の中から選択して履修することは、職業や仕事などの自らの将来を見据えた科目を選ばなければならないという点で自主、独立の精神を持たせます。3年間、あるいは4年間のこのような本校独特の学び方、学校での過ごし方を通して、逞しい有為な人材を育てていると確信をしています。

本校の使命は、単位制の特徴を生かした多様な学びの中で、生徒の特性を踏まえて、資質や能力を最大限に伸ばすことにより、心身共に健康で逞しい有為な人材を育成すること、ひいては地域に根ざした教育により、地域から信頼される学校であることです。今や、生徒諸君の努力や活躍により、本校は40年の時を経て、着実に校風と伝統が築かれていることは嬉しい限りであります。ここに、創立以来、学校づくりと学校発展のために、ご支援とご協力を賜りました多くの皆様に感謝と敬意を申し上げます。

さて、湧心館高校の新たな歴史を創造する在校生の皆さん。皆さんが所属している課程は異なっていますが、「自主」「責任」「創造」の校訓の下、皆さん一人ひとりが日々、有意義な学校生活を送っていることを、私は誇らしく思っています。皆さんが、家族や地域を支え、自立した大人となること、生涯にわたり社会や地域から、貪欲に学び、成長していく大人になることを望んでいます。

熊本地震から三年半が経ちました。県全体で創造的復興が進められている現在、皆さんが将来、地域の発展に寄与する人材になるとともに、令和の時代、社会を担い、支える人材となるよう成長してください。

「湧き上がる心 今を輝く」。このスローガンは本校創立40周年記念に合わせて昨年、3課程の生徒に呼びかけ、集まった多くの応募作品の中から選ばれました。ふつふつと湧き出して止まらない生徒諸君の姿、目が輝き、汗が輝き、生き生きとした生徒諸君の表情、そういう生徒諸君が過ごす学び舎を想像します。在校生の皆さんは今後とも、先輩方が築かれた校風と伝統を大切に、いつも湧く湧くとした新鮮な心を持ち、輝き続ける人であって欲しいと願っています。

（写真：記念式典後の太鼓部の見事な演奏）